戦後80年・昭和100年

報道写真を読む

「1億人の昭和史」から「毎日戦中写真アーカイブ」へ

2025 4/26㊏—8/31㊐

開館時間｜10:00 - 17:00(最終入館16:30)

月曜休館(祝日・振替休日の場合は次の平日)

＊6/2(月・開港記念日)開館、6/3(火)休館

一般 400円　大学生 300円

高校生 200円　中学生以下 無料

ニュースパーク
日本新聞博物館

〒231-8311 横浜市中区日本大通11
横浜情報文化センター 2F企画展示室
https://newspark.jp

主催｜毎日新聞社、ニュースパーク(日本新聞博物館)、
東京大学大学院情報学環 渡邉英徳研究室

後援｜神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、
川崎市教育委員会、かながわ人づくり推進ネットワーク

協力｜神戸大学大学院建築学専攻 槻橋・浅井研究室

太平洋戦争（第二次世界大戦）が終わって80年。今も世界では戦争により多くの人命が失われています。戦争はどのように始まり、人々から大切な人や日常を奪っていくのでしょうか。

毎日新聞社には日中戦争から太平洋戦争にかけて600人余の海外特派員が撮影した約6万枚のネガが保存されています。2022年からこれらのデジタルアーカイブ化を進めるとともに、東京大学・京都大学との共同研究によって背景を読み解き、未来を生きる世代に伝える方法を検討してきました。

本展では、毎日新聞特派員が撮影した戦争の実相を鮮明な画像でご覧いただくとともに、共同研究により開発したデジタルコンテンツも体験していただきます。戦争を直接体験した世代が少なくなるなか、資料を通して若い世代に「自分ごと」として戦争について考えてもらうことができる仕組みを、大学生や大学院生とともに考えてきました。

今年は昭和100年の節目にもあたります。戦争、敗戦、復興、高度成長、バブル、災害、疫病……報道写真は人々の姿を写してきました。戦争とは何か、そして情報とどのように向き合うべきか。「今」の問題として展示をご覧いただけますと、うれしく思います。

ミライ世代と平和を考える

「1億人の昭和史」と「毎日戦中写真」

「毎日戦中写真」は戦時中、毎日新聞特派員が海外で撮影した約6万点の写真群です。軍の命令に反して残した出稿簿からは、特派員の足跡や検閲過程を追うことができます。1970年代に出版された「1億人の昭和史」掲載写真とともに、戦争と平和を考えます。

「語り手なき時代」に向けて

展示は、①戦争のもう一つの姿、②ミライ世代へ、③現代への接続――の3部で構成します。①では、戦争に至る道や特派員の足跡、②では戦争と動物、戦争と子ども・女性の関係、③では不許可・フェイク画像を通して、戦争を「今」の問題として考えます。

「戦災VR」実演

東大大学院・渡邉英徳研究室とともに、親子で参加できる多彩なイベントを開催します。ゴールデンウィーク中に開催予定の「戦災VR（仮想現実）」実演では、大画面で3D（立体）映像を見たり、VRゴーグルを着けて戦争写真の中を歩いたりすることにより、戦争を「自分ごと」として捉え、平和について考えます。

AIによるカラー化・動画化

渡邉英徳・東大大学院教授と一緒に、AI（人工知能）を使って戦争中の写真をカラー化したり、写真から短い動画をつくったりするワークショップを開きます。現代は情報戦の時代と言われます。AIでフェイク画像や動画がどのように作られるのか、基本的な仕組みを理解することで、情報との付き合い方を学びます。

オープニングイベント			
	4/26㊏	11:00 - 12:00	ギャラリートーク 貴志俊彦・京大名誉教授
		13:00 - 15:00	オープニングトーク、VR実演
	4/27㊐	11:00 - 12:00	ギャラリートーク
	5/3 - 6㊗	10:00 - 17:00	リキッドギャラクシーによる展示
	5/6㊗	13:00 - 15:00	ギャラリートーク「動物たちがみた戦争」小泉悠・東大准教授 × 渡邉英徳・東大教授

本展はJSPS科研費「戦前・戦中の報道写真を用いたストーリーテリング・デジタルアーカイブのデザイン」（23K25139）の助成を受けた共同研究の成果を発表するものです

ニュースパーク
（日本新聞博物館）
〒231-8311
横浜市中区日本大通11
横浜情報文化センター 2F
企画展示室
TEL：045-661-2040
FAX：045-661-2029

アクセス

- みなとみらい線｜日本大通り駅 3番出口（情文センター口）直結
- JR根岸線・横浜市営地下鉄 関内駅｜徒歩10分
- 横浜市営バス 日本大通り駅県庁前｜徒歩1分
- 首都高速｜横浜公園出口｜約3分

https://newspark.jp